

現在の会員数 一般会員 140名 団体会員 8団体 協会員 4名 (平成29年7月現在)

講演会の報告(第30回会員集会)

日時：平成30年4月21日(土) 13時30分～17時

場所：日本水道会館7階会議室

講演①「水道事業の広域化について-香川県の事例を中心に-」

(講師：安藤 茂 様 (水道技術研究センター専務理事))

講演②「水道事業広域化の上善如水」

(講師：大隅 良也 様 (日水コン顧問))

講演①では、香川県における水道広域化の検討経緯について紹介されました。冒頭、超短編小説2編を用いながら講義に誘われました。講義では、平成20年から香川県水道局及び市町村水道担当者による水道広域化



安藤茂講師

勉強会を立ち上げ検討を開始されたことや、頻発する渇水調整や香川用水への依存体制、少ない市町村数・水道事業数、離島の存在などの香川県における特徴的な課題を踏まえ、複数の事業統合パターンを検討されたことを紹介頂きました。最後に、水道事業が赤字に転じる前に広域化の検討を進める重要性を説かれました。

講演②では、群馬東部水道の広域化の検討経緯について紹介されました。群馬東部では、平成23年度から、太田市を含む3市5町で広域連携検討ワーキングを開始しました。給水人口20万人を超える太田市から給水人口約1万



大隅良也講師

人の千代田町まで、事業規模の異なる複数の水道事業体が事業統合するメリットを関係各所に端的に説明することで、広域化を円滑に進める重要性を説かれま

した。特に広域化に向けた基本構想・基本計画策定に際して、3市5町の広域化による財政シミュレーション結果を提示したことで、より円滑に合意形成が図れたことを紹介されました。最後に、人口減少時代において、アセットマネジメントの重要性や、広域化において全体益のみならず個別益のメリットを打ち出す重要性、広域化最大の難関である水道料金の考え方について説かれました。



会場の様子

定例幹事会の報告

日時：平成30年4月21日(土) 11時～12時30分

場所：日本水道会館7階会議室

議題：10周年関連企画、ホームページ改善点他

編集後記

平成30年7月21日の年次定例総会は、「水を語る会」発足10周年という記念すべき回となります。年次定例総会で配布する「水を語る会講演録第5号」をお楽しみ頂けると幸いです。また、過去の第1号から第4号までの講演録はホームページ上で公開していますので、是非ご覧ください。今後も、水を語る会の活動に対しご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

(幹事 吉川 泰代)

◆新規入会をご希望の方は、事務局までご一報下さい。詳しくはホームページをご覧ください。

→ <http://mizuwokatarukai.org/>

以上